

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18520505
研究課題名（和文）近世日本にける武士像と道徳性と政治意識の相関性に関する史料復元的基礎研究
研究課題名（英文）The Historical materials study about relations with A samurai image and morality and the political awareness in early modern times Japan
研究代表者
高野 信治（TAKANO NOBUHARU）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：90179466

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：武士像・道徳・政治意識・教諭・アイデンティティ

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は近世日本の主たる為政者・武士と民衆・非武士層に共有された道徳性や政治意識の相関性を、いわゆる思想史に特化した史料群のみならず、地域史料（領主史料や地方史料・民衆史料など）の収集も行いながら分析し、かかる作業を通じた平和な時代の武士像の解析が目的である。

(2) 本研究では上記の目的に則し地域史料の収集が重要な柱である。その際、両階層（領主・武士と民衆・非武士）に共有される道徳・政治意識の析出に有効と思われる、教諭書・願書・家訓・顕彰記・地誌などを中心に収集、解析する。

2. 研究の進捗状況

(1) 本研究は、従来の科学研究補助金「民俗神と民族神との関係分析を通じた近世武家権力神の基礎的研究」（研究代表者・高野、2001～2004年度）のあとをうけた内容である。前回の研究では武士の神格化というフレームワークで全国的な調査を行ったが、本研究では、神格化を含めた武士顕彰を軸に資料収集を遂行している。したがって当初から予測してはいたが、全国的調査というよりも地域を限定した総合的考察が目的に照らせば有効な方法と思われる。このため九州に中国地方を加えた地域の史料調査・収集を重点的に行っている。

(2) 願書が領主側史料でまとまって編纂される事例はとくに藩政史料のなかに多くみられる。これに対し教諭類はいわゆる法令類との区別が難しく、むしろ明確な差別化がさ

れていないところに教諭（教化）の特性がある。またこれは領主・武士による庶民・非武士層に対する教育政策の問題を視野にいれながら検討する必要もあるが、本研究では教諭が民衆の道徳や政治意識、つまり社会観を前提にするのを想定しており、その意味で両者の道徳観などが共有されるという立場から法令類からの仕分けを遂行している。

(3) 政治意識やそれを担う武士に対する認識が直接析出できる民衆史料は、いわゆる顕彰的なものをのぞけば多くはない。一種の言論統制の時代ともいえる。しかし、観点を変えればそれに応える史料群は存在する。家訓類やそれとも関係を有する家職関係の史料、とくに農書類には百姓としての家職認識をもとにした社会観が表出されそこに治者としての武士像が析出できる。当初は想定していなかったが、このような民衆の家職関係書類を家訓類とともに収集している。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

藩政史料や民衆史料などのなかに、当初は想定していない程の史料収集が進んでいる。従来は見過ごされていた史料群を上記のようなかたちで捉え直すことにより、より豊かな武士像さらには社会像の構築の可能性が大きい。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 九州を中心に中国地方を射程にいれた史料収集を行っているが、それを本研究の目的に照らして如何に整序化するかについ

て、地域をある程度限定して、武士像・道徳性・政治意識など、政治社会に対する共有認識を析出させる方法論を検討している。これまで述べてきた、武士顕彰行為を基軸に様々な領主層の教諭行為や民衆の家職認識などを示す史料の総合化を通して、領主・武士と民衆・非武士の双方向的な社会観、そのなかでの武士像を析出する。

(2) また、それと同時に領主側の教諭書類、民衆側の家職書類などのデータベース化も考えている。教諭書の主たる内容が、道徳性をベースにした人間像であり、それが担うべき家職像であることを留意してのことであり、前述(1)項目と補完関係の作業と位置づける。

(3) 最後に、先述の武士の神格化のデータともつけ合わせ、武士顕彰行為に民衆の武士・武力そして政治意識がどのように内在しているのかについて、改めて検討することも考えている。それは「神国」日本のイメージのなかの武士、道徳、家職、治世の考察につながるだろう。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ①高野信治「貝原益軒の『武』認識とその行方 —〈武功譜代〉像の形成をめぐる—」『比較社会文化』第 15 巻、27～39 頁、2009 年、査読有
- ②高野信治「『世界』と『神国』 —西川如見の『天学』論をめぐる—」九州史学研究会編『境界とアイデンティティ』岩田書院、231～261 頁、2008 年、査読無
- ③高野信治「対馬藩田代領の扶持人と村役・町役 —飛地領代官所役人の形成と性格—」『地方史研究』329 号、63～80 頁、2007 年、査読有
- ④高野信治「社会変容と訴願・改革・教諭—近世中後期対馬藩田代領の役人層と百姓—」『九州文化史研究所紀要』50 号、1～37 頁、2007 年、査読無

[学会発表] (計 5 件)

- ①高野信治「武士像管見 —どのような眼差しが向けられていたのか—」九州歴史科学研究会 4 月例会 (西南学院大学)、2008 年 4 月 12 日

[図書] (計 1 件)

- ①高野信治、校倉書房『近世領主支配と地域社会』、2009 年、総頁 444 頁